



わたしの夢

川俣小学校6年

今野夏帆^{かほ}

フェンシングの選手として オリンピックに出場したい

わたしの夢は、フェンシングの選手としてオリンピックに出場することです。私がフェンシングを始めたきっかけは両親や兄、いところなど周りの人がフェンシングをやっていたため、練習や試合を見る機会が多く、「楽しそうだな」と思って1年生の頃に始めました。実際に、フェンシングは種目によってルールが異なっていたり、自分より強かった相手にも練習を重ねることで勝つことが出来たりと、とても楽しいです。昨年からはサーブルの練習も始め、冬に開催された全国大会では11位になることができました。しかし、私の目標は、世界選手権を連覇し、パリオリンピックで女子サーブル個人・団体に出場し、メダル獲得に活躍した江村美咲選手のように世界で戦える強い選手になることです。強くなるためには一生懸命練習をするしかないと思っています。特にフットワークの強化と個人レッスンを増やして、今年中に全国大会でベスト8に入りたいと思います。

町長のひとこと vol.50



川俣町では、移住・定住施策を重点施策の1つに掲げ、人口減少対策に取り組んでいます。令和3年9月に西庁舎1階にワンストップ窓口である「移住定住相談支援センター」を設けて、業務は専門業者に委託することにより幅広い分野での移住相談に応じています。令和6年度末時点では、川俣町へ県外からは139名92世帯、県内からは142名101世帯が移住しており、一定の成果が出ています。一方でさらなる移住・定住の促進のための力ぎは、迎え入れる私たちの意識にあると思います。それは、移住者にとつてのこの町の魅力とは「私たちが魅力的だと思っているこの町のこと」や「この町に住む私たち自身」だからです。人は魅力あるモノに惹かれます。この町に住む全員で魅力ある町にしていきたいでしょう。